

愛の一声で非行防止を

40人が啓発パレード

非行を防止して明るく楽しい家庭をつくろうと「青少年を非行から守る全国強調月間」中の七月十三日、保護司会や更生保護婦人会、子ども会連合会などのメンバーら約四十人が、非行防止を呼びかけ市内をパレードしました。

を更に減少するために努力していきたい」とあいさつ。
その後、参加者は九台の広報車に分乗し、北と南の二班に分かれて「うちの子、よその子を問わず愛の一声をかけて子供たちを非行から守ろう」と、非行防止を呼びかけました。

パレードに先立ち、市役所会議室に全員が集合。浜田助役、原富士雄南国警察署長が「今年の少年の非行は前年と比べると県下の減少の兆しがかがわれますが、これ



パトカーの先導で市内をパレード

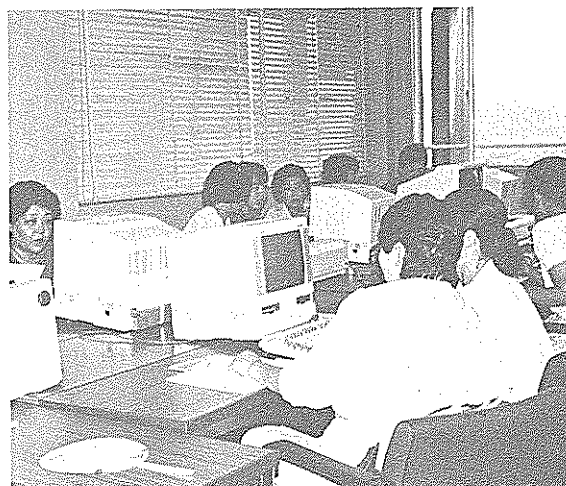
母子家庭を対象に ワープロ教室

二人一組で画面にとらめこ

七月四日から十九日まで市役所で若年母子世帯を対象にワープロ教室が開かれ、約三十人が受講しました。

これは、市母子寡婦福祉連合会（久万富士会長）が昭和六十二年度若年母子自立促進対策事業の一環として母子家庭の皆さんに自立の道を見いだしてもらおうと実施したもので、土曜日と日曜日に分けて三日間ずつ行いました。

参加者は全員が初心者。二人一組になって最初は恐る恐るキーに触れていましたが、最終日には簡単な文書なら打てるほどになりました。



した。

参加者からは、「今後も時代のニーズに合った雇用促進につながるようなことを企画してほしい」「中、上級コースも開いてほしい」「就職などの窓口を開いてほしい」など、積極的な意見が寄せられていました。

十市小学校で うなどん給食

県淡水養殖漁協（原正登司組合長）が、七月二十日、十市小学校（田内校長、生徒数百六十三人）にうなぎのカバ焼き百八十分をプレゼントしました。

これは、子供のころからうなぎの味に親しんでもらおうと行っているもので、市内では四回目。

午前九時半から漁協の組合員や婦人部の皆さん九人が、同校で生きたうなぎをさばき、焼き上げました。校庭に立ち込めるカバ焼きのにおいに、子供たちは給食の時間が待ちきれない様子。

まず、六年生の細川雅代さんが、「このうなぎをおいしくいただき、勉強にスポーツにがんばりたいと思います」とお礼を述べて食事が始まり、子供たちはおいしそうにうなぎをはおばっていました。



待ちに待ったうなどん給食に大喜び